

# 平成26年度八重山群島病害虫発生予報第10号(1月予報)

## I 1月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	30	40	20
平年並	40	40	40
低い(少ない)	30	20	40

(平成26年12月18日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	18.6	21.2	16.5	130.6	85.9

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

## II 1月の発生予報および防除上の注意事項

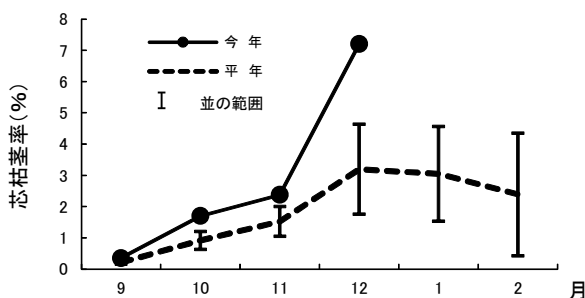
### 1 さとうきび

#### (1) カンシャシクイハマキ

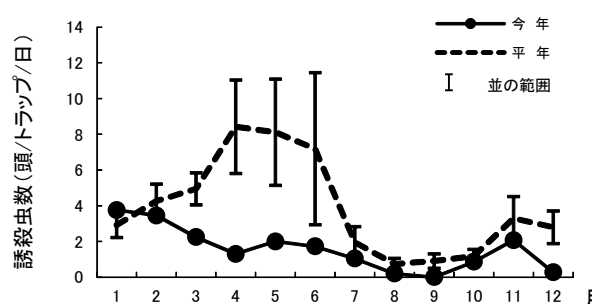
発生程度 : 多

予報の根拠

- 12月中旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は7.2%(前年10.6%、平年3.2%)と平年より高かった。
- 12月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は0.3頭(前年2.8頭、平年2.8頭)と平年より少なかった。
- 芯枯茎切開調査の結果、確認されたメイチュウ類幼虫のうち38%がカンシャシクイハマキであった。



新植夏植ほ場における芯枯茎率の推移



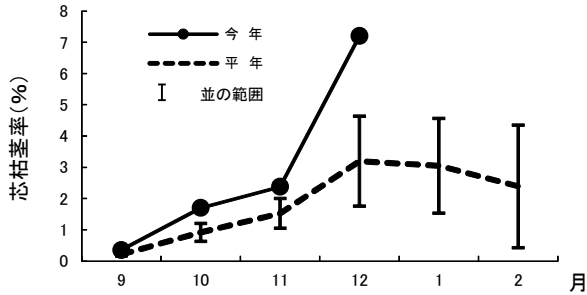
カンシャシクイハマキの誘殺虫数の推移

<防除上注意すべき事項>

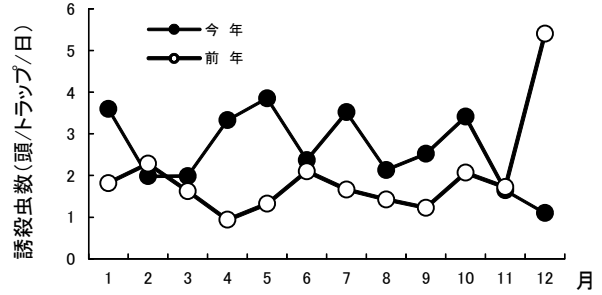
- ふ化した幼虫は、葉裏や葉梢部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等による溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- 平成24年度病害虫発生予察技術情報第3号参照(平成24年6月11日付)。

(2) イネヨトウ  
発生程度 : 多  
予報の根拠

- a 12月中旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は7.2% (前年10.6%、平年3.2%)と平年より高かった。
- b 12月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は1.1頭 (前年5.4頭)であった。
- c 切開調査の結果、確認されたメイチュウ類幼虫のうち62%がイネヨトウであった。



新植夏植ほ場における芯枯茎率の推移



イネヨトウの誘殺虫数の推移

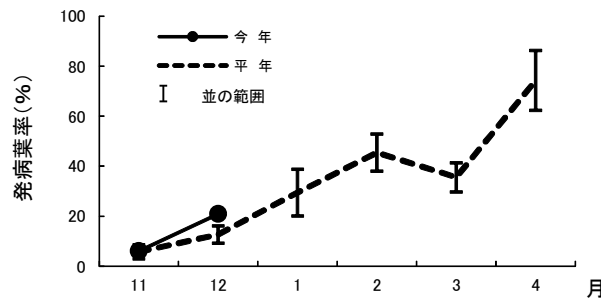
<防除上注意すべき事項>

- a カンシャシンクイハマキの防除上注意すべき事項を参照。
- b 平成26年度病害虫発生予報第6号(平成26年8月28日付)コラム参照。

## 2 かぼちゃ

(1) うどんこ病  
発生程度 : 並  
予報の根拠

12月中旬の調査の結果、発病葉率は20.9% (前年11.9%、平年12.6%)と平年よりやや高かったが、一部のほ場で特に発生が高かった。



うどんこ病の発生推移

<防除上注意すべき事項>

- a 発生源となる株元の不要な老葉・下葉を除去し、透光通風をよくする。
- b 着果期以降、草勢の低下に伴い被害が急激に広がる場合があるので防除を徹底する。